

1 学校として目指す授業

深い学びにつながるように活動が目的にならない主体的・対話的な取組を入れた生徒がその授業でのゴールの見通しを持てる授業

2 生徒の現状

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析 (中学校3年生)

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析
国語・数学・英語すべての教科・項目において都の平均を下回った。国語では情報の扱い方に関する事項、数学ではデータの活用で大きく下回っており資料・情報の読み取りに課題がある。英語では書くことが大きく平均を下回っていたが、話すことでは無回答率が全国の半分以下であり話す意欲が見られた。	読書をする時間や本を所有する量など読書に関する回答は都や全国の平均と比べ低く、睡眠や食事など基本的な生活習慣に対する回答も都や全国と比べ1の回答率が低い。一方で先生に良いところを認めてもらっているや将来の夢などの自己肯定感に対する項目は都や全国の平均と比べ高い回答をしていた。

(2) 東京都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の分析

「学校の学習で人に負けたくない」を選んだ生徒はすべての学年で都の平均よりも2ポイント以上低いが、学習の動機として「しっかり考えられるようになりたい」を選んだ生徒が都の平均よりも全学年で2～5ポイント高く学ぶ意欲を持っている生徒が低いことがうかがえる。「文章を読んで理解したことや考えたことなどを他の人に説明している。」を選んだ生徒は学校全体で6ポイント程低くなっており、「読む」ことへの苦手意識が示された。

(3) 清瀬市「学力調査」の分析

・国語では教科の正答率は目標値を上回ったものの、書くことについては3ポイント低く、特に文章を書くことが全国平均や市町村の平均を大きく下回った。また、記述回答問題が無回答の生徒が一定数いたので、書くことへの苦手意識が高くなってしまっている。
 ・数学では教科の正答率は全国平均や目標値を5ポイント以上上回った。特に基礎的な内容、数と式の領域で目標値や全国平均を大きく上回っており、授業初めの帯活動としての計算練習が身につけていることが示された。

(3) その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果	
小テストや定期考査の結果を見ると、取組が二極化しており、どの教科の取組にもきちんと取り組んだ形跡が見られる生徒がいる一方で、基本的な漢字の書き取りや基礎の計算、都道府県の位置などまったく学習に取り組んだ形跡が見られない生徒が一定数見られる。	

3 生徒の学力・学習状況等の課題

- ・基礎基本の学力が二極化している。
- ・聞く力や聞く姿勢に課題があり、聞いたり発言したり話し合うことが苦手な生徒が多い。
- ・主体的に実行する力をさらに培うことが課題である。
- ・家庭学習習慣の定着がされていない生徒が多い。

【授業改善推進プランの活用法】

①「1 学校として目指す授業」を設定する。
 ※学校経営方針との関連を確認すること。

②「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 生徒の現状」に、まとめる。

③「2 生徒の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 生徒の学力・学習状況等の課題」にまとめる。

④「3 生徒の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の視点」を設定する。

⑤「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → 教育指導課へ提出する。

⑥12月末に実施状況进行评估し、3学期以降の指導に生かす。
 評価 ◎...実施した。 ○...一部実施した。 △...未実施

4 学校全体の授業改善の視点

- ・協同的な学びを充実させるためにも学級経営や行事を通して、日ごろから間違いや失敗、できないこと、個性を認める人間関係の構築に務める。
- ・若手教員の授業力向上やICT機器の活用能力向上のために、教員同士の授業観察を取り入れる。

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	数学	評価	理科	評価	音楽	評価	美術	評価	保健体育	評価	技術・家庭	評価	外国語	評価	道徳	評価
1 学 年	・漢字や文法等の知識の定着、文章題の解答方法を授業内で取り組ませ、定着を図る。		・映像や画像を使いながら文章を読み取る力が弱い生徒でも取り組みやすくする。		・毎授業開始時の計算トレーニングを行う、習熟度別に扱う問の量と質を調整する。		・予想・実験・考察・まとめを行うことで、科学的なものの見方・考え方の定着を図る。		合唱コンクールや和楽器の演奏などの表現活動を通じて、主体的・対話的な活動を行い、思考・判断・表現を向上させる。		・表現活動の中で主体的・対話的な鑑賞活動を行い、基礎的な技能や発展的な思考・判断・表現力の向上につなげる。		小グループワークを意図的に設定し、自分の考えを伝える機会を多く確保する。その際ICTを活用して具体性・客観性をもたせる。		視覚化教材を多く取り入れ、教え合い学習を取り入れることにより苦手な生徒でも参加しやすくする。		デジタル教科書を活用し、個に応じた音読練習や課題学習に取り組むことで、スキルアップと基礎の定着を図る。		・話し合い活動を増やし、多角的な視点からのものの考え方に触れる機会を設ける。	
2 学 年	・自分の考えを組み立ててを考えて文章で表現する力に課題がある。語彙力を増やし、活用させることと併せて授業で取り組ませる。		・文章やグラフ・地図などの資料の読み取りをする場面を増やす。 ・ICT活用の場面を増やし単元追求の意欲を高める。		毎授業開始時に計算トレーニングを行うとともに、各単元ごとに思考・判断・表現を問う問題をグループ学習で行う。		・課題解決を協働で行わせることにより、新しい発見や新たな発想ができる授業へ。 ・データ上に解説動画をアップロードし、復習の機会を確保する。		・授業で学習した音楽に関する強弱記号・速度記号を活用して対話的活動を行い、表現力を高める。		・作品鑑賞会で対話的な活動や個性を認める活動を行う。 ・日本の伝統文化を鑑賞し、表現力の向上に活かす。		小グループワークを意図的に設定し、自分の考えを伝える機会を多く確保する。その際ICTを活用して具体性・客観性をもたせる。		ICT機器を活用し、ものづくりの基本的な技能の習得と定着を図る。 学習内容の理解を深める課題に取り組ませる。		デジタル教科書を活用し、音読の練習や自分で活用する工夫を身につけさせる。「書く」指導の強化を図る。		・文章教材以外にも、映像やロールプレイなど多様な方法でテーマについて考えさせる。 ・いろいろなグループで話し合わせることで、多様な考えに触れさせる。	
3 学 年	・思考した内容を言語化して表現することに課題がある。授業やテストを通じて繰り返し取り組ませる。		・複数の資料を読み取る課題を増やす。また意見交換等自分の考えをまとめ表現する場面を増やしていき、慣れさせていく。		・基礎学力の定着を目標に取り組む。そのために習熟度別に、授業開始のプリントの解説時間を設定する。		・ICT機器の活用により、単元追及の意欲を高める。 ・生徒どうしの教え合い活動により、単元内容の理解を深める。		・鑑賞の活動を通じて音楽の背景を理解し、楽曲に関する理解を深め協同的活動の中で表現の創意工夫を図る		・地域の発展をテーマに、基礎的な構成美や色の知識を基に、ICT機器を活用しながら表現活動を行う。		・ペアワーク、グループワークの機会を積極的に設けて、各単元における技能のポイントをICTを用いて具体的に伝え合うようにする。		植物の栽培やエシカル消費などの学習を通して、SDGsを含めた学習内容の理解を深める課題に取り組ませる。		・ICT、教科書、紙ベースでのワークシート、様々なマテリアルを使い、個別最適と協働的な授業の実現をする。		・新しい道徳や映像を用いて、授業を行ってきた。生徒同士で意見を共有し、話し合う場面を増やしていく。	